

# 平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果について

R1.7.31 秋田県教育委員会

## 概 観

- 平成19年度の調査開始以降、連続して良好な状況にある。
  - ・各教科の平均正答率が、小・中学校ともに、全国の平均正答率を上回っている。
  - ・児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の多くの質問項目で、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。

各教科の良好な状況に加え、児童生徒及び学校に対する質問紙調査の結果には、児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付け、豊かな人間性等が育まれている状況が表れている。このような状況は、“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”にも示している本県の優れた教育環境によるものであり、学校、家庭、地域、大学等が手を携え、オール秋田で成し遂げられたものと捉えている。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”にみる秋田の優れた教育環境

- ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣
- ・各学校における児童生徒一人一人へのきめ細かな指導と授業改善への取組
- ・学校と家庭、地域との連携・協働による質の高い教育力

- 県教育委員会では、今回を含めた12回の調査結果により、これまでの施策・事業等の方向性や有効性について一定の評価をしている。特に、少人数学習推進事業、県独自の学習状況調査、各学校が実施している共同研究体制による授業改善の取組等は、大きな効果を発揮していると考えている。
- 今後も、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただき、オール秋田で「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指し、「教育立県あきた」の実現に努めていく。

## 調査結果の活用

- 県教育委員会では、インターネット上で各校が自己採点結果の集計・分析ができるシステムを配信し、学校が行う独自の分析と指導の改善につなげる取組を支援してきた。今後、各学校は提供された自校の結果を基に、成果と課題を明らかにし、改善に向けた方策を一層具体化して取り組むことになる。このような取組を通して、児童生徒に対しては、個々に課題となっている学習内容を確実に定着させることが大切である。
- 本調査の結果を有効に活用するために、検証改善委員会を立ち上げ、これまでの課題の改善状況や今年度の結果から明らかになった課題等について詳細な分析を進めることにしている。
- 国と県の学力調査及び高校入試を一体として捉えた本県独自の検証改善サイクルの機能を引き続き重視していく。具体的には、全国学力・学習状況調査での課題を明確にし、県学習状況調査で課題の改善状況を把握する。また、高校入試においても、思考力・判断力・表現力等を発揮して解決する問題を出題し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めるようにする。

## 教科に関する調査の結果

### ◆概要

- 本県の平均正答率は、小・中学校ともに全ての教科において全国平均を上回っており、良好な状況である。
- 小・中学校ともに、ほぼ全て（小：92.9%、中：87.2%）の問題において、本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 小・中学校ともに、全ての問題の無解答率は全国平均以下になっている。
- 正答数分布については、全国に比べて正答数の多い層が厚い傾向が見られる。（p3～5 参照）
- 正答率が十分ではない問題については、指導の改善・充実を図り、学習内容を定着させていく必要がある。

### ◆平均正答率 [%]

※（ ）内の数値は全国比

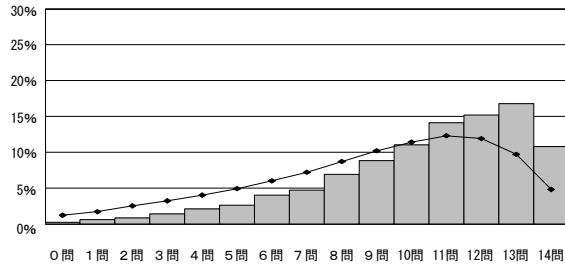
年度	小学校6年生					中学校3年生					
	国語		算数		理科	国語		数学		理科	英語
H31 (R1)	74 (+10)		70 (+3)			78 (+5)		65 (+5)			57 (+1)
	国語A (知識)	国語B (活用)	算数A (知識)	算数B (活用)	理科	国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)	理科	
H30	77 (+6)	61 (+6)	67 (+3)	57 (+5)	66 (+6)	80 (+4)	66 (+5)	70 (+4)	51 (+4)	70 (+4)	
H29	80 (+5)	64 (+6)	84 (+5)	50 (+4)		82 (+5)	78 (+6)	68 (+3)	52 (+4)		
H28	77 (+4)	64 (+6)	82 (+4)	52 (+5)		79 (+3)	72 (+5)	67 (+5)	48 (+4)		
H27	76.0 (+6.0)	76.4 (+11.0)	81.2 (+6.0)	51.5 (+6.5)	66.7 (+5.9)	80.8 (+5.0)	70.7 (+4.9)	68.4 (+4.0)	46.9 (+5.3)	59.6 (+6.6)	
H26	77.4 (+4.5)	67.3 (+11.8)	85.1 (+7.0)	66.2 (+8.0)		84.4 (+5.0)	55.8 (+4.8)	73.0 (+5.6)	65.5 (+5.7)		
H25	71.7 (+9.0)	59.1 (+9.7)	82.8 (+5.6)	67.1 (+8.7)		81.9 (+5.5)	74.6 (+7.2)	68.9 (+5.2)	47.5 (+6.0)		
H24	86.9 (+5.3)	63.0 (+7.4)	79.5 (+6.2)	64.0 (+5.1)	68.4 (+7.5)	79.7 (+4.6)	70.3 (+7.0)	67.4 (+5.3)	56.7 (+7.4)	56.1 (+5.1)	
H22	89.3 (+6.0)	84.8 (+7.0)	83.2 (+9.0)	59.0 (+9.7)		79.8 (+4.7)	71.7 (+6.4)	70.8 (+6.2)	50.0 (+6.7)		
H21	75.3 (+5.4)	60.4 (+9.9)	86.2 (+7.5)	63.7 (+8.9)		82.3 (+5.3)	81.8 (+7.3)	68.8 (+6.1)	63.4 (+6.5)		
H20	74.4 (+9.0)	62.9 (+12.4)	80.7 (+8.5)	58.9 (+7.3)		78.6 (+5.0)	66.8 (+6.0)	70.1 (+7.0)	54.7 (+5.5)		
H19	86.1 (+4.4)	69.0 (+7.0)	88.4 (+6.3)	68.6 (+5.0)		85.4 (+3.8)	77.0 (+5.0)	77.5 (+5.6)	65.3 (+4.7)		

- \* 各教科の平均正答率は、当該教科における設問ごとの正答率の平均として求めた値と同じといえます。
- \* 平成31年度（令和元年度）は、従来のA問題（知識）とB問題（活用）を一体的に問う調査問題で実施されています。
- \* 平成31年度（令和元年度）の中学校英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を集計したものです。
- \* 全国比は、文部科学省が公表した全国平均正答率を四捨五入し、整数値として算出しています。
- \* 都道府県別の平均正答率は、文部科学省が平成28年度から整数で公表しています。
- \* 平成22年度、平成24年度の平均正答率については、文部科学省から抽出調査における誤差も含めた「平均正答率の95%信頼区間」が公表されており、その区間の中央値を示しています。

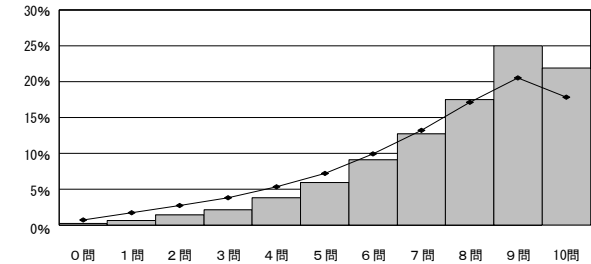
# 各教科の成果と課題

【国語】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

〈小学校〉



〈中学校〉



◇平均正答率 [%]

※ ( ) 内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域等				問題形式			
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	
小学校	秋田県	74	81.8	63.0	87.7	67.7	81.9	63.9	69.0
	全国	63.8	(+9.5)	(+8.5)	(+6.0)	(+14.2)	(+6.8)	(+15.2)	(+11.4)
中学校	秋田県	78	76.9	88.3	77.3	70.7	78.6	60.0	83.0
	全国	72.8	(+6.7)	(+5.7)	(+5.1)	(+3.0)	(+5.0)	(+3.2)	(+6.5)

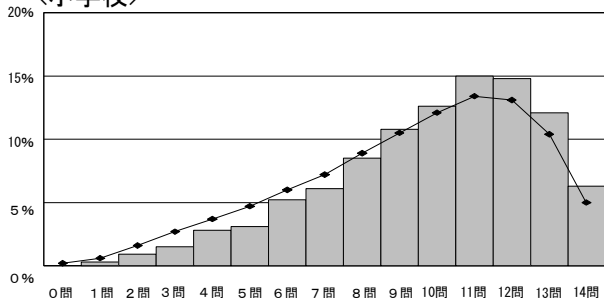
- 平均正答率は、小学校で10ポイント以上、中学校で5ポイント以上、全国平均を上回っている。
- 小学校では、「話すこと・聞くこと」において9ポイント以上、「読むこと」において6ポイント以上、全国平均を上回っている。中学校では、「書くこと」と「読むこと」において5ポイント以上、全国平均を上回っている。
- 小学校では、同音異義語の意味の違いを捉え、文脈の中で使い分けることや、文章から必要な情報を取り上げ、自分の考えの理由を明確にしてまとめて書くことに課題が見られる。
- 中学校では、封筒に宛名や住所を書くことなど書写の学習で身に付けた知識や技能を活用することや、話合いの話題や方向を的確に捉え、自分の考えをまとめて話すことに課題が見られる。

## ●指導の改善が求められる問題

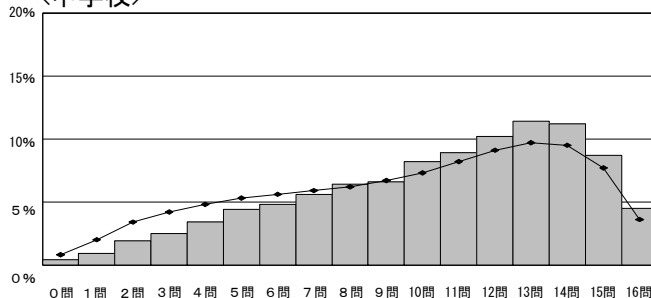
	問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	1三	39.5	28.8	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□□□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く。	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。
	1四 (1)ウ	47.6	35.6	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の一部分を、漢字を使って書き直す。 (かんしんをもってもらいたい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
	1四 (2)	63.0	47.8	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□□□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す。	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。
中学校	1一	69.0	63.9	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したのとして適切なものを選択する。	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ。
	1四	60.0	56.8	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く。	封筒の書き方を理解して書く。
	2三	67.6	60.4	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていけないこと」について自分の考えを書く。	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ。

【算数・数学】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

＜小学校＞



＜中学校＞



◇平均正答率 [%]

※ ( ) 内の数値は全国比

		全体	学習指導要領の領域				問題形式		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式
小学校	秋田県	70	68.7	55.1	80.0	72.4	77.4	78.4	51.8
	全国	66.6	(+5.5)	(+2.2)	(+3.3)	(+4.1)	(+1.7)	(+5.6)	(+4.4)
		全体	学習指導要領の領域				問題形式		
			数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式
中学校	秋田県	65	69.4	76.7	44.2	62.5	64.2	71.0	54.6
	全国	59.8	(+5.6)	(+4.3)	(+3.4)	(+6.2)	(+3.9)	(+4.4)	(+7.5)

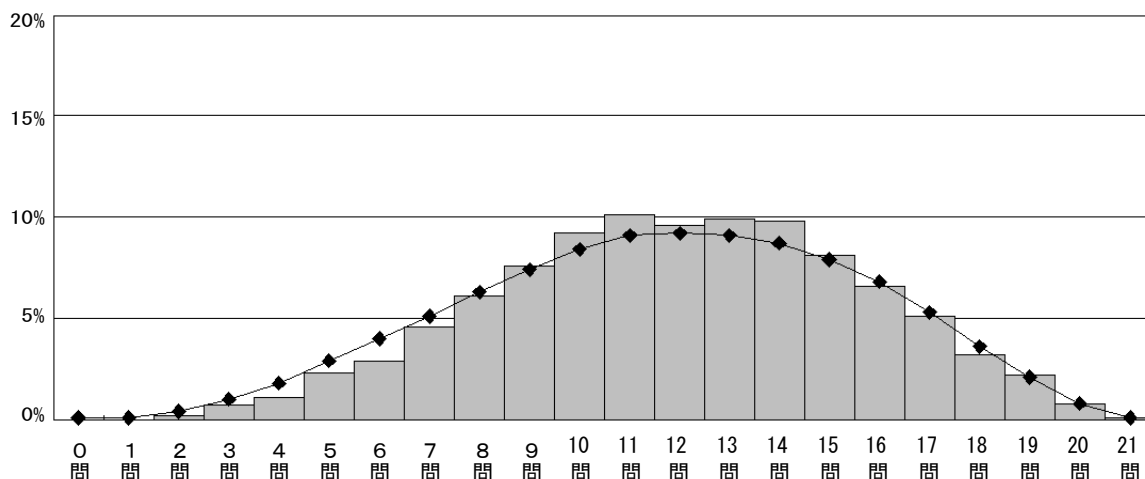
- 平均正答率は、小学校で3ポイント以上、中学校で5ポイント以上、全国平均を上回っている。
- 小学校では「数と計算」の領域において全国平均を5ポイント以上、中学校では「資料の活用」の領域において全国平均を6ポイント以上上回っている。
- 小学校では、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することや、示された除法の式の意味を理解することに課題が見られる。
- 中学校では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することや、資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

	問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	① (3)	39.3	43.9	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く。	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。
	② (3)	54.5	52.1	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く。	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。
	③ (4)	47.2	47.0	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ。	示された除法の式の意味を理解している。
中学校	⑥ (1)	39.0	38.8	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選ぶ。	グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる。
	⑥ (2)	40.9	34.7	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
	⑧ (2)	49.3	40.8	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

【英語】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国 （横軸は正答数、縦軸は生徒の人数の割合）

〈中学校〉



◇平均正答率 [%]

※ ( ) 内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域				問題形式		
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	選択式	短答式	記述式
秋田県	57	69.1		58.4	45.5	72.7	45.7	8.0
全国	56.0	(+1.2)		(+2.8)	(-0.3)	(+1.3)	(+0.5)	(+1.2)

※全体の平均正答率は、「話すこと」を除く3つの領域の合計を集計。「話すこと」の結果については、都道府県別、指定都市別の公表は行われない。

- 「聞くこと」と「読むこと」の領域において、1ポイント以上全国平均を上回っている。
- 「読むこと」の領域において、日常的な話題について書かれたものやまとまりのある文章から、内容や話のあらすじを読み取る問題の正答率が高い。
- 「書くこと」の領域においては、全国平均をわずかに下回っている。
- 聞いたり読んだりした内容について適切に応じるなど、複数の領域を統合した問題に課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	秋田県	全国		
4	11.4	7.6	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く。	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。
8	10.6	10.9	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く。	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる。
9(2)②	23.6	28.9	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く。	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる。
10	2.0	1.8	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く。	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる。

## 児童生徒質問紙調査の結果

※数値は「している」「どちらかといえば、している」等、肯定的な回答の割合（％）  
 （ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「している」等と回答した割合（％）

### 【生活習慣】

○全体として、望ましい生活習慣が定着していると考えられる。

質問事項	小学校6年生		中学校3年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
朝食を毎日食べていますか。	97.0 (90.0)	+ 1.7 (+ 3.3)	96.0 (86.9)	+ 2.9 (+ 4.6)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	94.2 (66.7)	+ 2.6 (+ 8.0)	95.2 (64.4)	+ 2.4 (+ 7.4)

### 【学習習慣】

○家庭学習に主体的に取り組むなど、望ましい学習習慣が定着していると考えられる。

質問事項	小学校6年生		中学校3年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	86.1 (47.8)	+14.6 (+14.7)	66.7 (24.1)	+16.3 (+ 9.2)
学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(30分以上) 96.5	+ 6.3	(1時間以上) 80.1	+10.3

### 【豊かな人間性等】

○自己肯定感や他の人を思いやる心が醸成されている様子がうかがえる。  
 ○地域に対する関心と地域に関わろうとする意欲があることがうかがえる。

質問事項	小学校6年生		中学校3年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
自分には、よいところがあると思いますか。	89.2 (50.4)	+ 8.0 (+11.6)	82.8 (35.9)	+ 8.7 (+ 6.9)
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	93.4 (59.2)	+ 7.3 (+16.1)	90.4 (44.0)	+ 8.9 (+12.7)
人が困っているときは、進んで助けていますか。	91.8 (50.6)	+ 3.9 (+10.2)	91.2 (44.4)	+ 5.3 (+ 9.8)
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	73.8 (32.2)	+19.3 (+13.3)	60.8 (21.3)	+21.4 (+ 9.8)
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	83.7 (55.8)	+15.7 (+18.6)	62.2 (31.7)	+11.6 (+10.7)
日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。 [新規]	87.2 (61.9)	+11.1 (+15.2)	75.3 (40.1)	+16.0 (+14.3)



## 【授業等の教育活動】

- 課題解決に向けて、児童生徒が、自ら考え主体的に活動に取り組んだり、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
- 多くの児童生徒が授業等で身に付けた知識・技能等をほかの学習に生かしているという意識をもっており、確実な定着につながっている様子がうかがえる。
- 児童生徒一人一人のつまずき等に対して、教師が手立てを工夫し丁寧に指導している様子がうかがえる。
- 国語の授業では、自分の考えを音声や文字で表現する学習経験を積み重ねており、全ての教科等の学習の基盤となる言語能力の向上につながっている。
- 英語の授業では、目的や場面、状況等に応じて、自分の考えや気持ちを英語で話したり書いたりして表現するなど、主体的にコミュニケーションを図っている。
- 道徳の授業では、考え議論する活動が取り入れられている。

※数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（%）  
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「当てはまる」等と回答した割合（%）

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	87.5 (46.1)	+ 9.8 (+13.1)	85.6 (39.5)	+10.8 (+10.2)
友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	85.3 (44.0)	+11.2 (+13.7)	86.5 (45.8)	+13.7 (+17.5)
授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか。	92.4 (54.0)	+ 9.6 (+15.1)	87.6 (41.2)	+12.7 (+14.3)
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	96.0 (73.9)	+ 4.3 (+14.4)	93.0 (53.2)	+ 8.4 (+15.9)
算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか。	88.4 (56.6)	+ 4.9 (+ 7.3)	78.5 (40.0)	+ 4.6 (+ 5.2)
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか。	87.8 (50.4)	+ 9.7 (+14.2)	89.8 (47.1)	+12.4 (+14.6)
前学年までに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。 [新規]			78.0 (38.0)	+15.1 (+12.0)
前学年までに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか。 [新規]			88.9 (55.3)	+11.5 (+16.2)
前学年までに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか。 [新規]			87.9 (50.2)	+13.3 (+17.3)
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。 [新規]	91.4 (61.2)	+10.5 (+19.1)	91.1 (55.2)	+14.5 (+21.2)

## 学校質問紙調査の結果

### ◆概 要

- 地域に根ざしたキャリア教育の取組を通して、児童生徒が自分の将来の姿を意識できるようにしている。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて学習過程を工夫し、問題解決のプロセスを重視した探究型授業の充実を図っている。
- 各教科等で身に付けたことを、ほかの教科の学習や日常生活などでも意図的に使う機会を設けることで、生きて働く知識等の定着につなげている。
- 英語の授業においては、教師の英語による発話の充実を図ったり、A L Tを活用したりすることにより、生徒が英語に接する機会を意図的に増やしている。
- 家庭学習の取り組み方の指導について、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく上回っており、学校全体での具体的な指導を通して習慣化につなげている。

※数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（％）  
 （ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（％）

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。	96.9 (36.2)	+13.7 (+15.4)	100.0 (69.6)	+ 1.4 (+20.1)
前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	93.4 (28.6)	+ 4.1 (+ 6.4)	97.4 (40.0)	+ 9.4 (+19.2)
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	90.3 (18.4)	+ 5.6 (+ 0.3)	90.5 (18.3)	+12.6 (+ 3.8)
国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか。	93.4 (34.2)	+ 5.2 (+ 8.5)	94.7 (44.3)	+ 4.8 (+12.8)
算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。	90.3 (18.4)	+ 7.9 (+ 1.9)	89.5 (27.8)	+11.4 (+12.6)
前年度までに、生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点から、どの程度、授業を英語で行いましたか。 [新規]	/		94.8 (48.7)	+ 8.8 (+22.2)
年間の授業のうち、どのくらいの頻度でA L T（外国語指導助手）を活用した授業を行いましたか。 [新規]			(週数回以上)	
前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。	98.9 (71.9)	+ 6.7 (+24.9)	95.6 (59.1)	+ 8.6 (+22.2)
前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。	99.0 (73.5)	+ 3.5 (+23.6)	100.0 (64.3)	+ 7.7 (+25.4)



## 全国学力・学習状況調査結果の活用

### ◆概要

- ほとんどの学校が、平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果を全職員で共有するなどして、学校全体で活用している。
- 全国学力・学習状況調査の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、指導の改善等に活用していることについて、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく上回っており、学力向上に向けた検証改善サイクルの機能を効果的に生かしている状況が見られる。
- 全国学力・学習状況調査の結果分析から得られた成果や課題を、近隣の小・中学校と共有している学校の割合が全国に比べて高い。

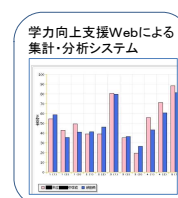
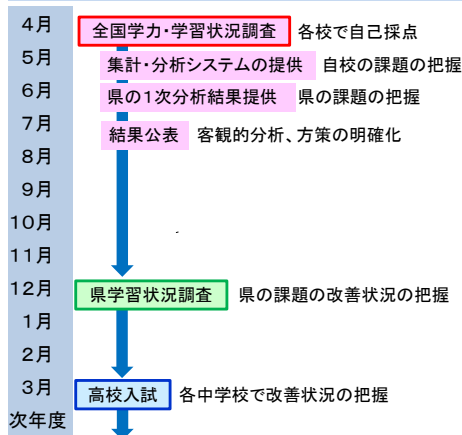
### ◎学校質問紙調査結果より

※数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（%）  
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（%）

質問事項	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	99.0 (52.6)	+ 1.7 (+10.1)	97.3 (53.0)	+ 1.6 (+18.5)
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。	100.0 (67.3)	+ 4.7 (+24.4)	99.1 (62.6)	+ 5.4 (+27.0)
平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか。	67.9 (23.0)	+ 7.3 (+ 3.4)	72.1 (30.4)	+12.1 (+ 9.7)
平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む。）	97.5 (34.7)	+ 6.3 (- 2.2)	93.9 (44.3)	+ 6.4 (+10.8)

○県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルを機能させることで、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に向けた各学校の取組を支援しています。

### 全国学力・学習状況調査、県学習状況調査、高校入試を一体として捉えた検証改善サイクル



## 県教育委員会の取組

### ☆学力向上関連事業等

#### ◆これまでの主な事業等

- 少人数学習推進事業 [少人数学級、チーム・ティーチング等による少人数授業] (H13～)
- 学習状況調査事業 (H14～)
- 教育専門監の配置 (H17～、義務教育課はH18～)
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条 (H20～)
- 秋田わか杉 七つの「はぐくみ」 (H27～)
- 算数・数学学力向上推進事業 (H17～22)
- 学力向上推進事業 (H23～)
- “「問い」を発する子ども”の育成のための指針の作成 (H24)

#### ◆今年度の事業等

- 少人数学習推進事業
  - ・小学校第1学年から中学校第3学年までの全ての学年で少人数学習を実施
- 学力向上推進事業
  - (1) 学習状況調査事業
  - (2) あきたの教育力充実事業
    - ① 学力向上支援事業
      - ・教科指導CTの活用による指導力向上プロジェクト
      - ・学校訪問指導
      - ・学力向上支援Web活用
      - ・理数才能育成プロジェクト ー科学の甲子園ジュニア秋田県大会ー
    - ② あきたの教育力発信事業
      - ・検証改善委員会による全国学力・学習状況調査の分析・提言
      - ・学力向上フォーラムの開催 (令和元年11月23日 大仙市)
    - ③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業 (H30、R1)
- キャリア教育実践研究事業
  - ・キャリア教育市町村担当者等連絡協議会 (県内の学識経験者、市町村教育委員会担当者等で構成)
  - ・キャリア教育実践研究協議会
- AKITA英語コミュニケーション能力強化事業
  - ・小・中・高の一貫した英語教育の推進により、英語によるコミュニケーション能力の強化を図るとともに、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。



秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

- 一 早寝 早起 朝ごはん  
生活リズムは全ての基本
- 二 元気なあいさつ 明るい返事  
規則 約束 守るわか杉
- 三 読んで 話して 書いて 高める  
「問い」を発する思考力
- 四 問題解決 子どもが主体  
授業の続きは家庭で学習
- 五 職場体験 インターンシップ  
地域で育む子どものキャリア
- 六 学校や地域の話題で語り合い  
将来の夢 家族でえがく
- 七 ふるさとを支える自覚と志  
みんなのでつくる未来の秋田

※本県の未来を担う子どもたちを「わか杉」と呼んでいます。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”の作成の経緯、基本的な考え方

県教育委員会では、平成27年度に“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”を作成いたしました。

全国学力・学習状況調査（文部科学省）において、全国トップレベルを維持している本県の学力やその基盤となる様々な要因については、全国からはもちろんのこと、海外からも注目されることとなりました。

第2期あきたの教育振興に関する基本計画を策定し、「教育立県あきた」の実現を目指す今、児童生徒質問紙調査等から見える児童生徒を主体とした授業づくり、家庭学習の習慣、家庭や地域の教育力等、本県の財産とも言えるオール秋田でつくるすばらしい教育環境を“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”として発信し、「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指したいと考えております。